

お客様ご相談窓口一覧表

修理サービスや製品についてのご相談は機種名をご確認の上、お買い上げの販売店または下記のご相談窓口にご依頼ください。

ご購入やご贈答品などでお困りの場合は、下記のお近くの窓口にご相談ください。

名称、所在地、電話番号は、変更する場合がありますのでご了承ください。

[illegible]

本社・工場	三条市東新塚7-7	〒955	TEL(0256)32-2111(大代表)
柏崎工場	柏崎市宝町2-58	〒945	TEL(0257)23-5175(代表)
豊岡工場	豊岡市下条町庫ノ浦1069	〒940-11	TEL(0258)22-2121(代表)

F G H I J

株式会社 **エフエフエフ**

103WA0052- 0 1 2 3 dsp 7

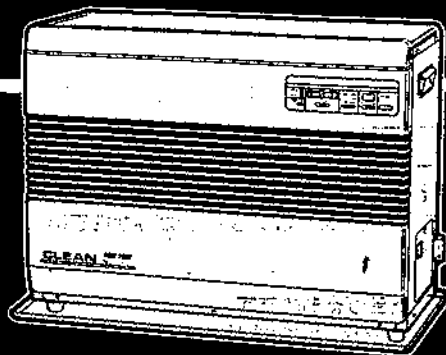
CORONA

コロナ密閉式石油ストーブ

取扱説明書

正しく使って上手に節約

FF-624TR
FF-624S



もくじ

- | | |
|------------------------------------|-------|
| 1. 特に注意していただきたいこと、安全のために必ずお守りください… | 1~4 |
| 2. 使用する場所… | 4 |
| 3. 各部の名称… | 5~7 |
| 4. 使用前の準備… | 8~12 |
| 5. 使用方法… | 12~18 |
| 6. 安全装置… | 18 |
| 7. その他の装置… | 19 |
| 8. 日常の点検・手入れ… | 19~23 |
| 9. 定期点検… | 24 |
| 10. 故障・異常の見分け方と処置方法… | 24~25 |
| 11. 部品交換のしかた… | 26 |
| 12. 保管(長期間使用しない場合)… | 26~27 |
| 13. 仕様… | 28~29 |
| 14. アフターサービス… | 30 |
| 15. 添付け… | 30~32 |

株式会社 **コロナ**

タイマーの使用法

■おはようタイマーの解除

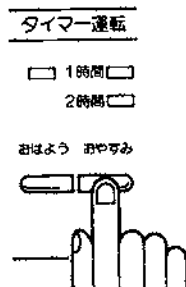
- おはようタイマーボタンを押します。おはようタイマーランプが消灯し、時刻表示部に現在時刻が表示され（時計動作コロンが点滅）、タイマー運転が解除されます。
- このままであれば自動的に燃焼を開始します。停止する場合は、運転スイッチを押しもどしてください。

外出時など、留守中に燃焼を開始するようなタイマーセットは絶対にしないでください。

おやすみタイマー

■おやすみタイマー運転

- おやすみタイマーボタンを押してください。設定時間のおやすみタイマーランプが点灯し、設定時間経過後自動消火します。
 - 1回押す——1時間運転後自動消火
 - 2回押す——2時間運転後自動消火（このとき、運転スイッチは、運転状態のままにし、おいてください）



■おやすみタイマー運転の解除

- おやすみタイマーボタンを押して、おやすみタイマーランプを消灯させてください。
- この状態で、おはようタイマー運転されていない場合は燃焼が継続しますので、消火するときは運転スイッチを押しもどしてください。

おはようタイマーと、おやすみタイマーの同時運転

1. おやすみタイマーをセットしてください。
2. おはようタイマーをセットしてください。

- 必ず、おやすみタイマーのセットを先に行ってください。おはようタイマーのセットを先に行いますと、一旦、消火して燃焼部が冷えてからでないと、再点火できません。

使用上の注意

△注意 給排気筒は高温です。やけどに注意してください。

- ストーブや給排気筒にはみだりに床暖房用の熱交換器などを取付けないでください。
- ストーブや給排気筒に不適当な熱交換器などを取付けると排ガスの水分が結露しやすくなり、結露水が凍結して給排気筒を塞ぎ、不完全燃焼や排ガスが室内に漏れる原因となり危険です。
- また、ストーブの寿命を短くする原因にもなります。

6. 安全装置

安全装置が作動して消火した場合は、ストーブと周囲の点検・処置を行ってください。
処置後の点火操作は点火の項に従ってください。

対震自動消火装置

地震や強い衝撃を受けたときは対震自動消火装置が作動して自動的に消火します。
（E3表示）

対震自動消火装置は自動的に再セットされます。点検後、点火操作をしてください。

点火安全装置

- 異常燃焼を防止するため、点火ヒータおよび燃焼用送風機に通電される前に、燃料が流出することのない構造になっています。

停電安全装置

停電や電源プラグのさしこみが抜けたときは、すべての運転を停止します。
（ただし、5秒以内の停電の場合は、燃焼を継続します）

停電復帰（再通電）後デジタル表示部に「E7」が表示され、ストーブは運転しません。
再度点火操作をしてください。

過熱防止装置（安全サーモ）

△警告 対流ファンガードや温風吹出口がふさがれたり、ストーブ前面に障害物があるなどして本体内部が過熱すると安全サーモが作動します。（表示部全消灯）

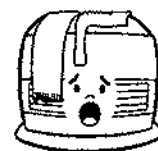
原因を取除き、本体内部が十分冷えてから点火操作をしてください。

⚠ 警告

● 温風吹出口をふさがないで

衣類、紙などで温風吹出口や空気取入口をふさがないでください。

衣類、紙などでふさぐと、火災の原因になります。



● スプレー缶厳禁

スプレー缶を温風のあたるところに放置しないでください。熱でスプレー缶の圧力が上がり、爆発し、危険です。

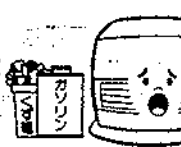


⚠ 注意

● カーテン、可燃物近接禁止

カーテンや燃えやすいもののそばなどでは使用しないでください。

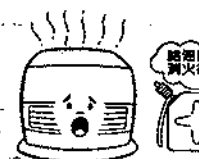
火災が発生するおそれがあります。



● 給油時消火

給油は、必ず消火してから行ってください。

火災のおそれがあります。



● 油漏れ確認

給油口口金は確実に締めてください。

給油口口金を下にして、油漏れがないことを確かめてください。

口金を斜めに締めたりすると、簡単に口金が外れて火災のおそれがあります。



● 異常時使用禁止

万一異常を感じたときは使用しないでください。

異常燃焼のおそれがあります。



消火後再点火するときの注意

■燃焼中に誤って次のような操作をすると、再点火安全装置の働きで、ストーブが冷却されるまで点火できませんので注意してください。

- 電源プラグを抜いた。
- 運転スイッチを押しもどした。
- おはようタイマーボタンを押し、タイマー動作をした。

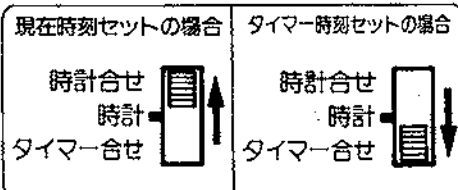
ただし、瞬間的な消火操作もしくは停電（いずれも、約5秒以内）の場合は、そのまま燃焼します。

タイマーの使用法

現在時刻合せ・タイマー時刻合せ

- 時計調節の切換スイッチを〔時計合せ〕または〔タイマー合せ〕にします。

- セットする前は、デジタル表示部は（AM）0:00の点灯を表示します。

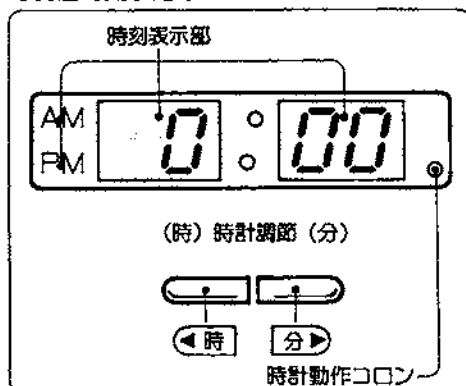


- 時計調節ボタンの〔時〕〔分〕を押して現在時刻またはタイマー点火時刻をセットしてください。

- 〔時〕ボタンで時刻表示部を合せたときはAM・PMを確認してください。

- 〔分〕ボタンで時刻表示部を合せたとき、現在時刻セットの場合は、1分ごとに、タイマー時刻セットの場合は、5分ごとに動きます。

- 〔時〕〔分〕ボタンを押しつづけると、表示は連続してかわります。



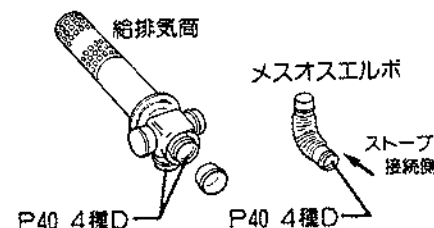
- 12時設定の場合は、0ではなく、12に合せてください。



- 切換スイッチを〔時計〕の位置に合せてください。
時計動作コロンが点滅に変わり時計動作を開始します。

給排気筒及びトップの周囲の点検

- 給排気筒及び排気管の接続部がはずれたり、排気管抜け検知用リード線がはずれたり、断線していないか点検してください。
- 給排気筒を一度取りはずして、再び取付けるときは、排気管の接続部内部にはめこんであるOリングが破損していないか確かめてください。破損していた場合は、お買い求めの販売店に交換を依頼してください。



△注意 給排気筒及びトップの周囲に障害物が置いてないか、ときどき点検してください。

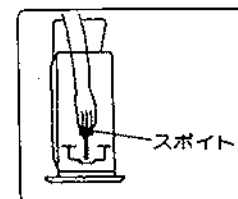
- 給排気筒がつまりますと、不完全燃焼をおこします。
シーズン初めには必ず点検し、くもが巣をつくったり、異物が入ったりしているときは、必ず掃除してください。

固定タンクの手入れ

624TR

ときどき、オイルフィルターや固定タンク内を点検してください。給油時などに混入した水やごみがオイルフィルターや固定タンクの底にたまることがあります。オイルフィルターの手入れとともに固定タンクの手入れもしてください。

オイルフィルターを取出し、付属のスボイトで固定タンク内にたまっているごみや水を抜いてください。

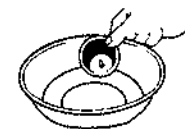


オイルフィルターの手入れ

624TR

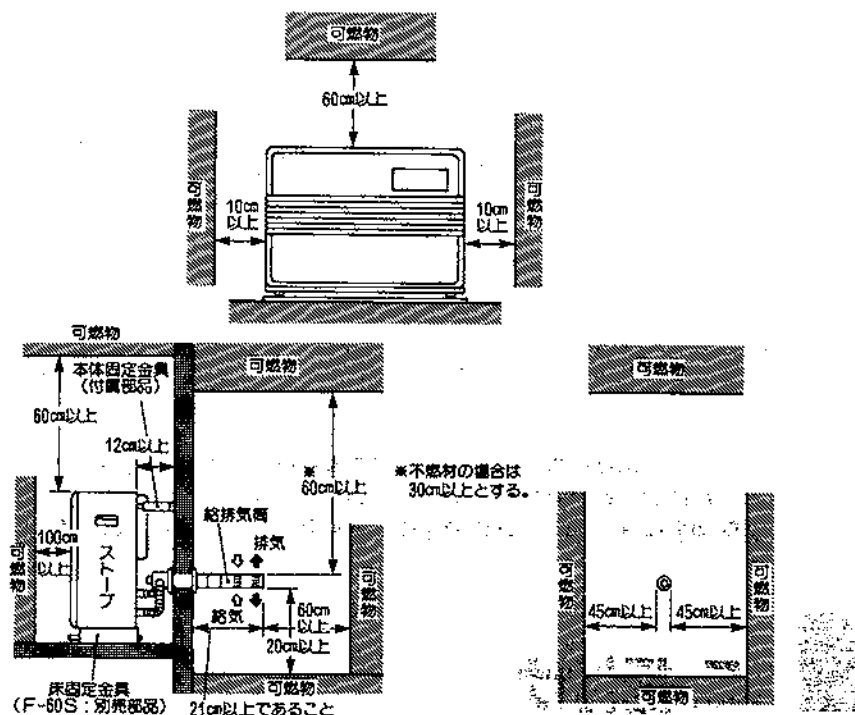
固定タンクからオイルフィルターを取出し、中のごみやほこりを除去してから、きれいな灯油で洗浄してください。

洗浄後は、もとどおりセットしてください。



給油タンクの中に灯油が入っているのに、給油ランプが点灯し火が消えたときはオイルフィルターにゴミやほこりがたまって油の流れを悪くしています。

標準据付け例



据付け工事後の確認

1. ストーブが壁または床に、固定金具で固定されていることを確認してください。
2. 丈夫な床面に据付けられていることを確認してください。
3. ストーブ及び給排気筒と周囲の材料との距離は火災予防条例で規制されています。「標準据付け例」を参考にし、確認してください。
4. 給排気筒の貫通部及び、寸法は工事説明書の「給排気筒の取付け」を参照して確認してください。
5. 延長設置の場合は、延長3m以下、曲り3ヶ所以下で行ってください。
6. 油タンクはストーブより、2m以上離れているか確認してください。(624Sの場合)

- ストーブに付属している送油ホース又は指定の送油ホース以外は、使用しないでください。
- 送油ホースを屋外では使用しないでください。(624Sの場合)

7. 適切な位置に電源コンセントが設けられているか、また電源コードが給排気筒に触れていないか確認してください。

⚠ 注意

●据付け上の注意

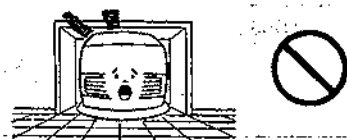
- 据付けは、お買い上げの販売店に依頼してください。
- ストーブおよび給排気筒の据付けについては、火災予防条例、石油燃焼機器の設置基準による規制がありますので、これに従って据付けてください。
- ストーブの固定は、本体固定金具などで、確実に固定してください。



2. 使用する場所

安全に使用するために

- マントルピースなどには据付けないでください。

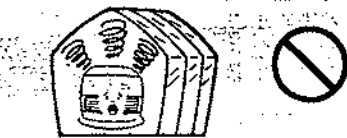


- 高地では使用しないでください。

高地で使用する場合は販売店にご相談ください。
(空気の濃度が薄いため、燃焼に必要な空気が不足します。)

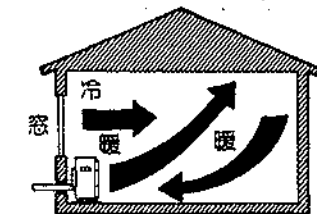


- 温室、飼育室、乾燥室などでは絶対に使用しないでください。



効果的に使用するために

- 外気に接する窓の下や壁面に置くと、冷気がストーブで暖められ温風として対流しますので効果的です。
- ストーブの前面に障害物があると、部屋の温度に暖かくなるばかりでなく、ストーブ本体の温度が上昇して危険ですので、使用場所には十分注意して効果的に使用してください。



出入口など人の通るところは、ぶつかる危険ですので避けてください。

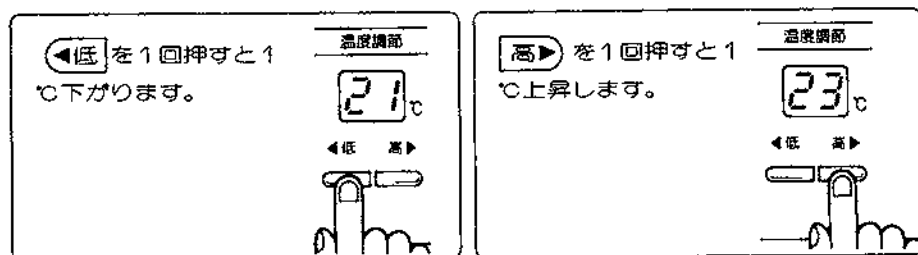
- デジタル表示部におはようタイマーセット時刻が表示（時計動作コンロが点灯）されている場合は、運転スイッチを押すとタイマー運転になりますので、おはようタイマーボタンを押してタイマー運転を解除してください。
- 着火後約10分間ほどは、熱膨張のため、熱交換器などが小さな音を出すことがあります。異常ではありません。
- 初めてご使用になるときは、耐熱塗料などが焼けて煙と臭いがでます。窓をあけて部屋の換気をしてください。
- 初めてご使用になるときは、送油経路内の空気だまり（エアロック）により炎が消えなくなることがありますが、一旦消火して、冷えるのを待ってからもう一回点火してください。
- 使用中に運転スイッチを押してもとして「消火」にしたり、電源プラグを抜いたり、おはようタイマーボタンを押すなどして約5秒以上通電を止めると自動消火し、燃焼室が冷却してからでないと再点火できません。
- 外気温が低くなると、排気筒の先端から連続的に白煙が出ることがあります。これは排ガス中に含まれている水分が凝結して水蒸気になるためで、異常燃焼による白煙ではありません。

室温の調節

ストーブ運転中は、ルームサーモにより温度調節のセット温度に応じて自動的に火力切替を行います。

■温度調節ボタン（◀低▶高▶）を押し、デジタル表示部のセット温度を希望の温度に合せてください。

●停電があった場合でも1分間以内の停電であれば、再セットする必要はありません。

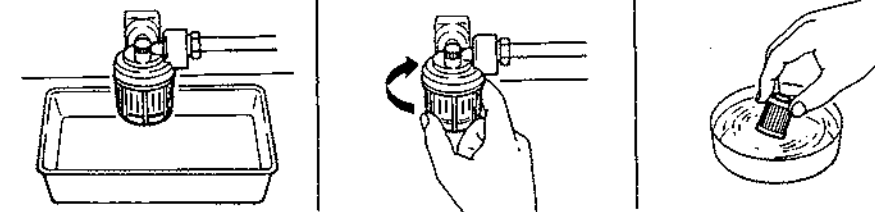


- 未セットの場合、セット温度は自動的に22°Cにセットされます。
- セット温度は、16°Cから30°Cまでの範囲がセットできます。

オイルフィルターの掃除

オイルフィルターにごみや水がたまった場合は、次のように掃除を行ってください。

1. 油タンクの送油バルブを締めて、オイルフィルターの下にできるだけ大きな容器を用意してください。
2. オイルフィルターのプラスチックのカップを手でゆっくりと左にまわしてはずし、カップにたまったごみや水を取除いてください。
3. フィルターを真下に引いてはずし、きれいな灯油ですすぎ洗いしてください。（水で洗わないでください）



点火ヒータの点検

点火ヒータや点火しんにスガが付着しますと、赤熱が低下したり、油の吸上げが悪くなったりして点火しにくくなり、着火不良の原因になります。

- 点火ヒータの脱着は入念に行う必要がありますので（燃焼用空気気密性保持のため）、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。

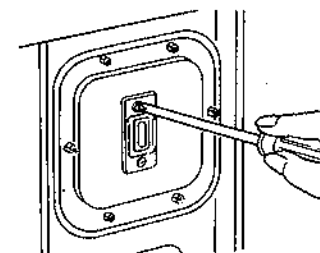
ポットバーナの点検

- バーナ内部や燃焼リングの点検は高度な技術を必要としますので、お買い求めの販売店に依頼してください。

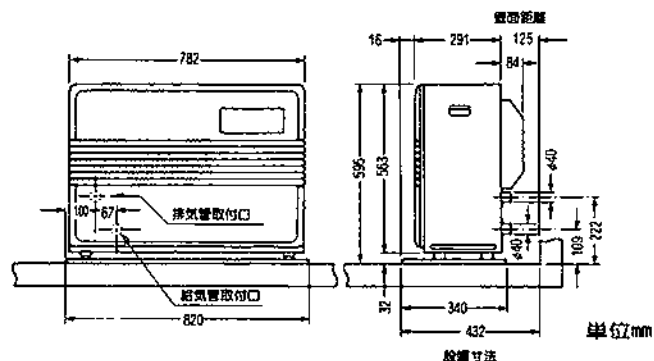
のぞき窓の透明度が悪くなった時

のぞき窓をはずしてふく場合は、次のようにしてください。
前パネルとグリルを、前パネル(下)・グリル・前パネル(上)の順番ではずします。
つぎに、のぞき窓をとめているねじをはずし、少し水を含ませた布でふいてください。

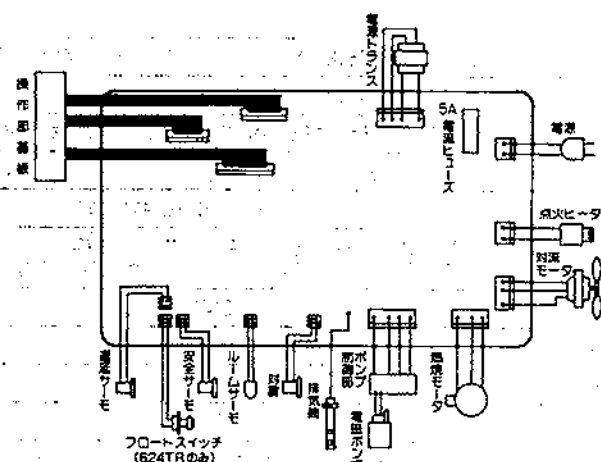
- ねじ部は常温になってからはずしてください。
- もとどおり、均一にねじを締めて固定してください。
- パッキンを傷めないよう注意してください。



外形寸法図

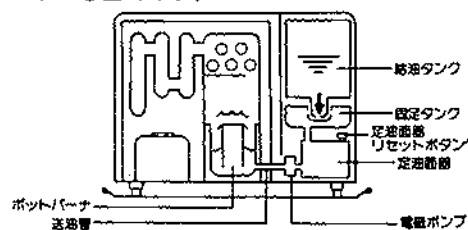


配線図

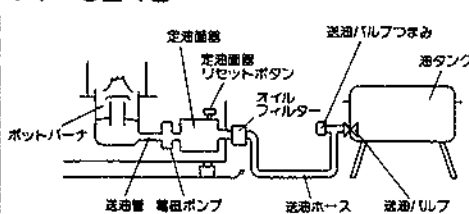


送油經路圖

FF-624TR

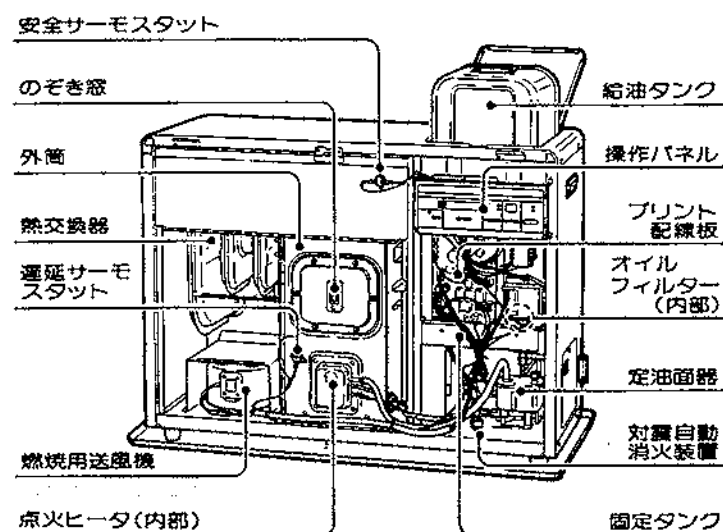


FF-624S

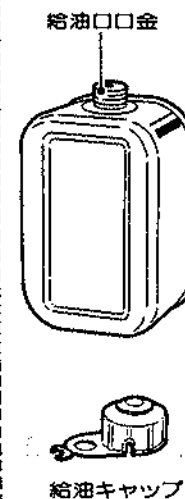


構造図

624TR

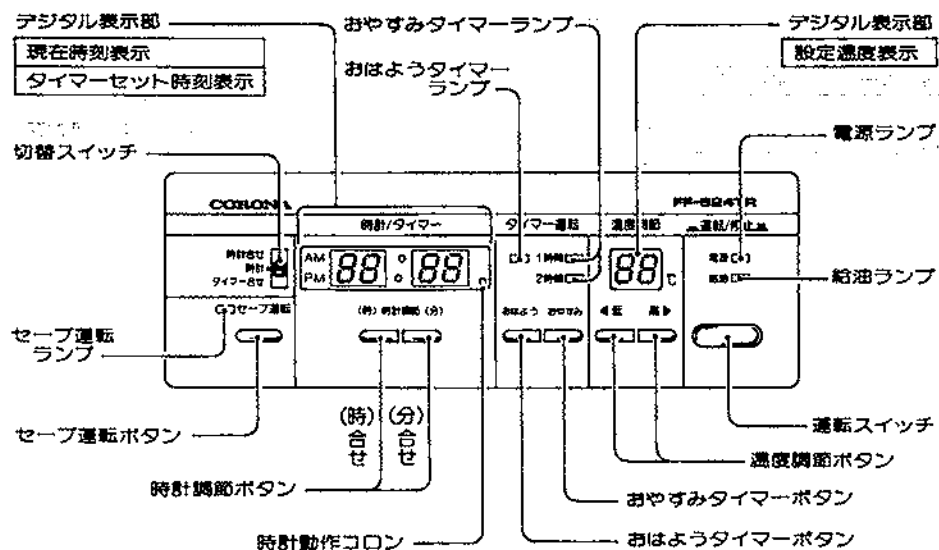


給油タンク



操作部

624TR



点火前の準備と確認

定油面器のセット

初めて使用するときやシーズン初めには、ストーブ右側面の角穴の中に指を入れ、定油面器リセットボタン（赤色）を軽く押下げてください。

- リセットボタンは据付時や、シーズン初めに操作します。定油面器に強い衝撃を与えたり異常があったとき以外は、特に操作する必要はありません。

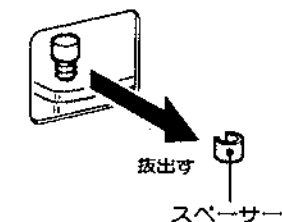
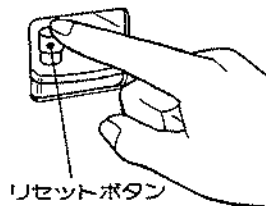
万一点火操作後4～5分しても着火しなかったり、着火後2～3分で消火してしまう場合は、リセットボタンを押してください。

（安全弁がはずれ、灯油ガススムーズに流れます）

- ストーブの据付時や長時間放置した後は、このリセットボタンの下側にあるスパーサを拔出してからリセットボタンをいちばん下まで1～2度押してください。

灯油流入口のゴム弁の固着がはずれて灯油ガススムーズに流れます。
長時間押し続けると定油面器より油があふれますので注意してください。

- スパーサは必ずもとどおりに取付けてください。



送油経路の点検

- 給油タンク（油タンク）や送油管の接合部などから油漏れがないかどうか確認してください。

電源の接続

△注意 電源プラグは、必ずプラグを持って抜き差しを行い、確実にコンセントに差し込んでください。

- 電源は、必ず適正配線された単相100Vのコンセントを使用してください。

- たこ足配線は危険ですので、絶対にしないでください。
- 電源コードは、足に引っかかったり、家具などにはさまれないように注意してください。

ストーブ周囲の確認

△注意 ストーブの上や周囲に燃えやすいものを置かないでください。

9. 定期点検

定期点検のおすすめ

長期間ご使用になりますと、機器の点検が必要です。

2シーズンに1回程度、シーズン終了後などに、お買い上げ店又は修理資格者（（財）日本石油燃焼機器保守協会（TEL 03-3499-2928）で行う技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）又は技術講習会修了者（点検整備士））のいる店などに点検依頼されることをおすすめします。

10. 故障・異常の見分け方と処置方法

次のような現象は故障ではありません。

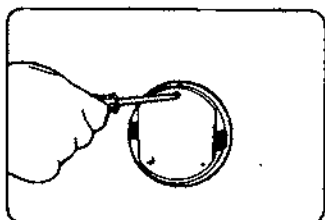
修理を依頼される前にもう一度お確かめください。

現象	説明
点火時 消火時	初めて使用するとき、煙やにおいがでる。 耐熱塗料やほこりなどが焼けるためです。 しばらく窓をあけて換気してください。
	初めて使用するときや、シーズン初めの初使用時に、点火しない。点火しても2～3分で消火してしまう。 ●定油面器リセットボタンをセットしてください。（11ページ参照） ●送油経路内のエア抜きをしてください。（10ページ参照）（624Sのみ）
	燃焼開始時や消火後に「ピチピチ」という音がする。 本体内部が熱により膨張、収縮するためです。
	点火してもすぐ温風が出ない。 消火しても温風が出ている。 不快な冷風を出さないためであり本体内部が暖まると温風が自動的に吹出てきます。 本体内部が冷却するまで送風を継続します。
燃焼時	炎の中にとときどき赤火が混る。 異常ではありません。
その他	給排気筒の先端から連続的に白煙が出る。 外気温が低くなると、排ガス中に含まれている水分が凝結して水蒸気になるため、異常燃焼による白煙ではありません。

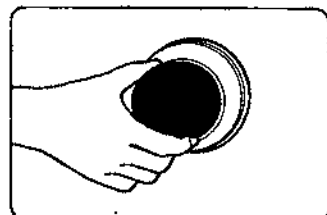
- 取扱説明書は大切に保管してください。
- ストーブを壁に付けたまま保管される場合は、風通し出口や背面の対流用空孔等に、ほこりなどが落ちないように適当なカバーを付けてください。
- ストーブを取りはずして保管される場合は、ポリエチレンの袋に入れ、乾燥した場所に横倒しにしないようにしておきましょう。

収納方法

- 給排気筒、排気管、給気ホースをはずしたときには、次のようにしてください。
壁に取付けたスリーブは、そのままにして、穴は次の要領でふさいでください。



室内側は、メクラプタでふさいでください。



室外側は、スリーブプタでふさいでください。

給排気筒、排気管の中についている接続部漏れ止め用Oリングを調べて、いたんだら新しいOリングをお求めの上、交換してください。

4. 使用前の準備

燃 料

灯油（JIS1号灯油）を必ず使用してください。

△危険 ガソリンなど揮発性の高い油は、火災の原因になりますので絶対に使用しないでください。



△注意 変質灯油、汚れた油、水の混じっている灯油などは絶対に使用しないでください。

△注意 灯油は必ず火気、雨水、ごみ、高温及び直射日光を避けた場所に保管してください。



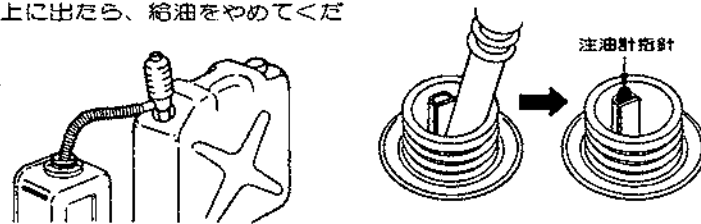
給 油

給油の際の手順と注意

624TR

△注意 給油は必ず消火してから行ってください。
火災のおそれがあります。

1. タンク蓋ふたを開いて給油タンクを取出し、給油口金に付属の給油キャップをかぶせ、よく押しこんでから左に回して給油口口金をはずしてください。
2. 市販の給油ポンプを使って給油してください。
注油計の指針が上に出たら、給油をやめてください。



- 給油のときは、灯油をあふれさせたり、給油タンクを倒さないよう注意してください。
- こぼれた灯油はよくふきとってください。
- 給油のときは、保管容器内の水やごみが給油タンクにはいらないよう注意してください。

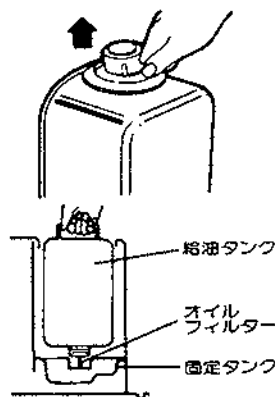
給油

3. 給油口口金を固く締め、給油キャップのとつてを引き上げて給油キャップをはずしてください。

△注意 給油口口金は、確実に締めてください。

●給油キャップは、はなさないようにしてください。

4. 給油タンクは給油口口金を下側にしてタンク室に静かに入れ、中の固定タンクに正しくセットしてください。



●初めて給油される場合は、給油タンクをセットしてから、送油経路に灯油が通るまで4～5分位かかり、運転スイッチを押しても給油ランプが点灯する場合は、しばらく放置しておきましょう。

●給油タンクは、6リットルまでしか入れられません。タンクを戻したり、溢したりしてオーバーフローがあり、変形します。お取り扱いの要になります。

給油の際の手順と注意

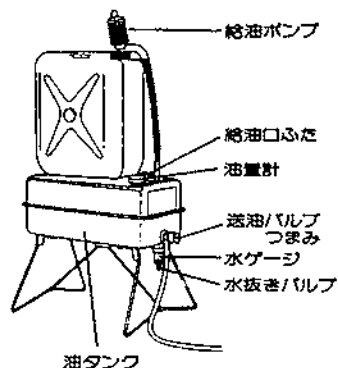
624S

△注意 給油は必ず消火してから行ってください。
火災のおそれがあります。

- 送油/バルブを閉じて給油口ふたをはずし市販の給油ポンプで灯油を給油してください。油量表の針が「満」をさしたら給油をやめてください。

給油が終了したら、給油口にあるろ網を取り出して水やごみを捨ててください。

- ろ網を取付けて、給油口ふたを必ずもとどおり締めてください。



- 給油の際に、水、ごみなどを入れないように特に注意してください。
●水、ごみなどは燃焼不良や、ストーブの寿命低下などの原因になります。
●給油口ふたは、確実に締めてください。
●こぼれた灯油はよくふきとってください。

11. 部品交換のしかた

△注意 不完全な修理、調整は危険ですので、部品の交換、調整が必要な場合には、お問い合わせの販売店又は修理資格者（（財）日本石油燃焼機器保守協会で行う技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）又は技術講習会修了者（点検整備士））のいる販売店にご相談ください。

部品交換は、コロナ純正部品 とご指定ください。

部品ご入用の際には、コロナ製品取扱販売店で必ずコロナ純正部品をご指定ください。純正部品以外の部品をご使用になりますと、性能が十分に発揮されないばかりか、器具を損傷したり思わぬ事故の原因となります。

12. 保管(長期間使用しない場合)

シーズンオフや長期間使用しないときは、次の要領で手入れを行い保管してください。

1. 電源プラグをコンセントから抜いてください。
2. 対流送風機を止めている蝶ねじ2本をはずし、羽根とガードのほごりを掃除機などで取除いてください。（23ページ参照）
3. 前パネルとグリルをはずして、掃除機などで内部のほごりを取除いてください。
4. (624TRの場合)
 - 1) 給油タンクの灯油は全て抜取ってください。中に水分やごみが残ったままにしておきますと給油タンクが腐食する原因になります。
 - 2) オイルフィルター・固定タンク内のごみ、水分、灯油を付属のスポイトで全て抜取ってください。（20ページ参照）
 - 3) 定油面器の灯油を抜取ってください。（21ページ参照）

(624Sの場合)

- 1) 油タンクの灯油は全て抜取ってください。中に水分やごみが残ったままにしておきますと油タンクが腐食する原因になります。
- 2) オイルフィルターと定油面器内の灯油を抜取ってください。（21・22ページ参照）

5. 塗装部分は、湿った布で汚れを落してから、からぶきしてください。

万一、具合の悪いときは下記の早見表にもとづいて点検し、処置にこまるようなときや、原因のはっきりしないときは、お買い求めの販売店に連絡してください。

—早見表—

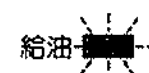
現象 原因	点火スイッチの位置が悪い	燃料ポンプの作動が悪い	燃料フィルターの詰まり	燃料ホースの詰まり	燃料タンクの底に水やゴミが溜まっている	燃料タンクの底に錆が溜まっている	燃料タンクの底に泥が溜まっている	燃料タンクの底に油が溜まっている	エラー表示ランプ表示		処置方法
									FF-624S	FF-624TR	
点火ヒータの断線	●								E2	E2	販売店に修理を依頼する
点火ヒータと点火しんとの関係位置が悪い	●								E2	E2	販売店に修理を依頼する
油タンクに灯油がない					●				E2 E1	給油 給油	給油する
燃焼リングが正しくセットされていない		●							—	—	販売店に修理を依頼する
定油面側に水、ごみの目づまり	●								E2 E1	E2 E1	ストレーナをはずして掃除する。油タンクの水を抜く。
送油ホースに空気たまりがある(624Sのみ)		●							E2 E1	—	送油ホースを振る。山形になっている所は平に直す。
ストーブが傾斜している			●						—	—	ストーブを水平に調整する
排気管の配管が長い、曲がり箇所が多い			●						—	—	延長3m、曲り3箇所以下にする。1m以上の延長は、重量制御板をとりはずす。
ストーブに衝撃を与えた			●						E3	E3	運転スイッチを押し再点火する
灯油に水が混入している	●								— E1	— E1	灯油をとりかえ、定油面側の掃除をする
排気管の接続部にスキマがある			●						—	—	排気管の接続箇所を正しく取付ける
給排気管の先端がおあわれている		●							—	—	おあっているものを取除く
連絡パイプの袋ナットが締まっていない			●						—	—	締直す (販売店に修理を依頼する)
電源コードの断線	●								—	—	販売店に修理を依頼する
過熱防止装置の作動	●								表示部全消灯	表示部全消灯	原因を取除いた後、再運転する
排気管抜け検知装置の作動	●								E5	E5	排気管の接続部及び排気管抜け検知用リード線の接続部のはずれがないか点検しはずれがあれば、正しく接続する。

給油

燃料切れの注意

624TR

①ご使用中、給油タンク内の灯油が空になると、給油ランプが点滅し、給油の予告をします。早めに給油してください。



〈点滅〉

②更に、灯油が少なくなると給油ランプは、点灯に変わり、電子アラームでお知らせします。同時に自動消火し、電源ランプが消灯します。
給油ランプは、運転スイッチを押しもどすまで消灯しません。



電子アラーム

〈点灯〉

自動消火

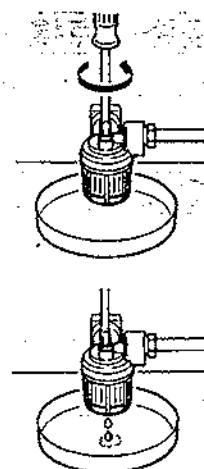
燃料切れの注意と空気抜きの方法

624S

油タンクを空にしないように注意してください。

油タンクを一旦空にしますと、送油経路内に空気がたまり、正常に送油ができなくなることがあります。このような場合には次の順序で空気抜きをしてください。

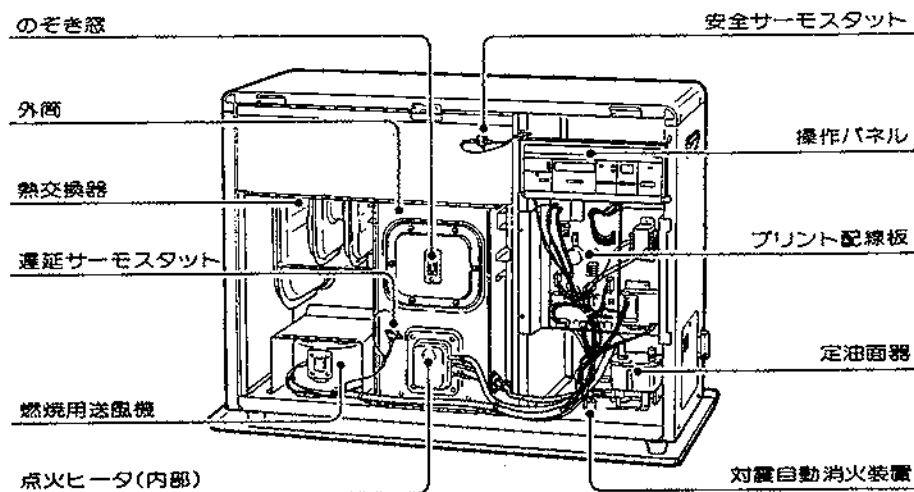
1. 油タンクに給油します。
2. ストーブ背面のオイルフィルターに付いている空気抜き用のねじを、ドライバーを使ってゆるめてください。
3. 空気が抜けてオイルフィルターの中に灯油が満たされたら、空気抜き用のねじを締めてください。(灯油が床にこぼれないように布、容器などを用意してください)



- 油タンクは、空にしないように、早目に給油してください。
- 初めて運転するときも、同じ手順で送油ホース内を油で満たしてから行ってください。

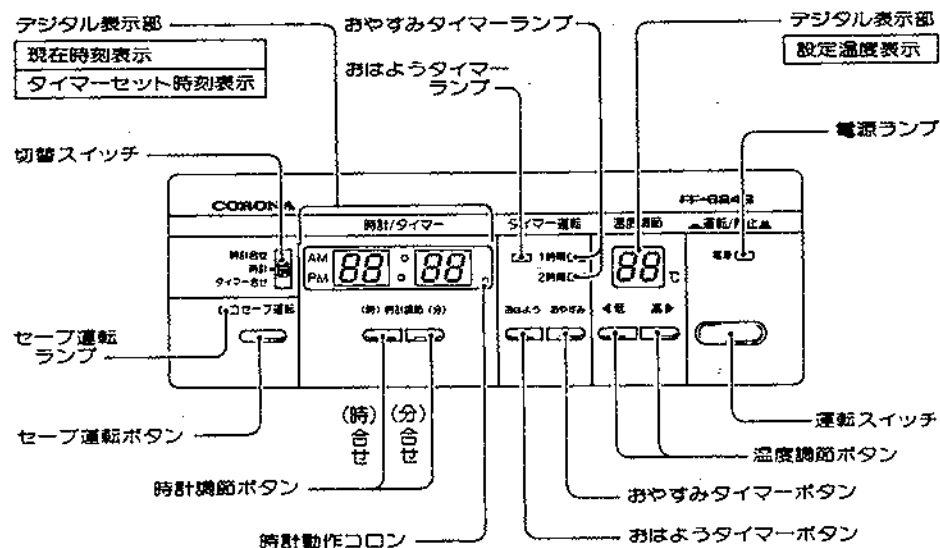
構造図

624S



操作部

624S



13.仕様

仕様

形 式 の 呼 び	FF-624TR	FF-624S
種 類	ボット式・強制絶排気形・強制対流形	
点 火 方 式	電気点火式	
使 用 燃 料	灯油 (JIS 1号灯油)	
燃 料 消 費 量	最 大	0.81 L/h
	最 小	0.36 L/h
発 熱 量 (入 力)	最 大	27,940 kJ/h (6,670 kcal/h)
	最 小	12,420 kJ/h (2,970 kcal/h)
熱 効 率	最 大	93%
	最 小	93%
暖 房 出 力	最 大	7.22 kW, 25,980 kJ/h (6,210 kcal/h)
	最 小	3.21 kW, 11,550 kJ/h (2,760 kcal/h)
油 タ ン ク 容 量	7.8 L	—
標 準 適 室	温暖地	木造 30㎡ (18畳)まで コンクリート 41㎡ (25畳)まで
	寒冷地	木造 31.5㎡ (19畳)まで コンクリート 48㎡ (30畳)まで
外 形 寸 法	高さ595mm 幅820mm 奥行391mm (置台を含む)	
質 量	40kg	37kg
電 源 電 圧 及 び 周 波 数	100V 50Hz, 60Hz 各専用	
定 格 消 費 電 力	最 大135W/145W (点火初期に短時間) 点火時 83W/ 83W 燃焼時 65W/63W	
給 排 気 筒 呼 び 径	D40	
給排気筒設置通部孔径	75mm	
排 気 温 度	230℃	
電 流 ヒ ュ ー ズ	5A	
安 全 装 置	対震自動消火装置・点火安全装置・停電安全装置・過熱防止装置	
そ の 他 の 装 置	排気管抜け検知装置・再点火安全装置	
付 属 品	給排気筒セット1、スリーブセット1、型紙1、置台1、 本体固定金具2、ストッパーリング1、ストッパー1、 エルボカバー1、メクラフタ1、スリーブフタ1、 締付バンド2、 木ねじ4、小ねじ3	
	スポイト 1 給油キャップ 1	送油ホース 1 (締付バンド付)

温風吹出口の掃除

温風吹出口や本体の上面などには、ほこりが付着して白くなります。

湿った布で汚れをおとしてから、やわらかい布でからぶきしてください。

●温風吹出口羽根を曲げたり、変形させたりしないよう注意してください。



熱交換器の点検

熱交換器の内部にススが異常にたまりますと、不完全燃焼の原因になります。

●異常燃焼が起こった場合には、バーナの点検とあわせて熱交換器の点検を、お買い求めの販売店に依頼してください。

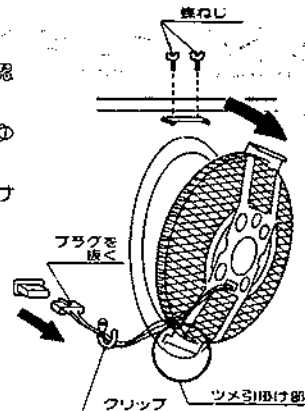
対流用送風機の掃除

対流用送風機のガードにほこりがたまり、音が大きくなって温風量が少なくなり、暖房出力が低下すると同時に、ストーブ内の温度が異常に高くなって、過熱防止装置が作動する場合があります。

1週間に1度は、次の手順に従って対流用送風機を取りはずして掃除をしてください。

対流用送風機のはずしかた

1. 運転を停止し、対流ファンが止まっていることを確認してください。
2. 対流用送風機のリード線プラグを抜き、クリップをゆるめリード線をはずしてください。
3. 蝶ねじ2本をはずしてから、対流用送風機を後に傾けながら上方へ引出してください。
4. 掃除機等でモータ、羽根、ガードについたほこりを取り除いてください。
羽根を曲げたり、変形させないように注意してください。



対流用送風機の組付けかた

●対流用送風機をはずした時と逆の順序で、もとどおりに取付けてください。
この時、対流用送風機の下側のツメの部分の後板の角穴に、差込んでください。

●対流用送風機は、時々点検し、定期的に掃除をおこなってください。

点火前の準備と確認

給排気筒接続部の確認

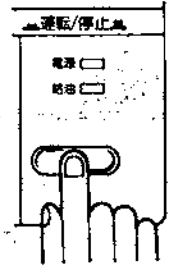
警告 給排気筒が正しく接続されているか確認してください。外れていると運転中に排ガスが室内に漏れ大変危険です。

5. 使用方法

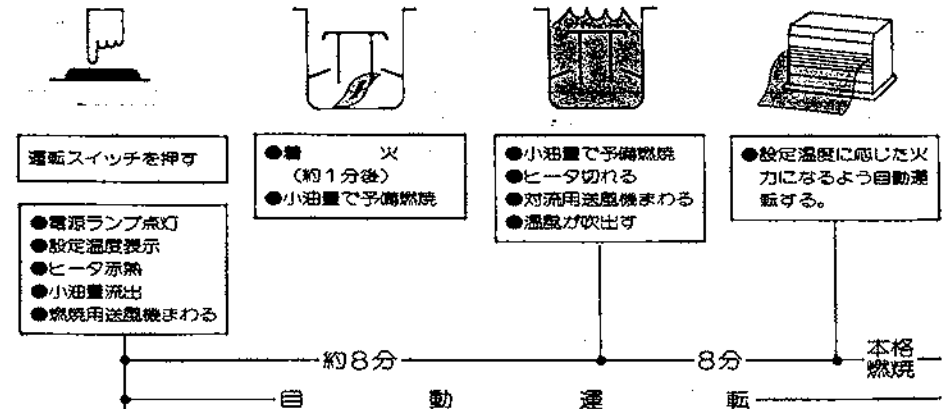
点 火

- 初めてご使用になるときは、給油タンクをセットしてから4～5分位待つて、点火操作をしてください。(624TRの場合)
- 油タンクの送油バルブを開いてください。(624Sの場合)
- 一旦、運転操作をすると、消火操作をしても対流用送風機がまわるまで運転状態を継続することがあります。これは燃焼室内の未燃ガスを完全に燃焼させる為です。

1. 運転スイッチを押してください。
電源ランプが点灯し、設定温度が表示されます。



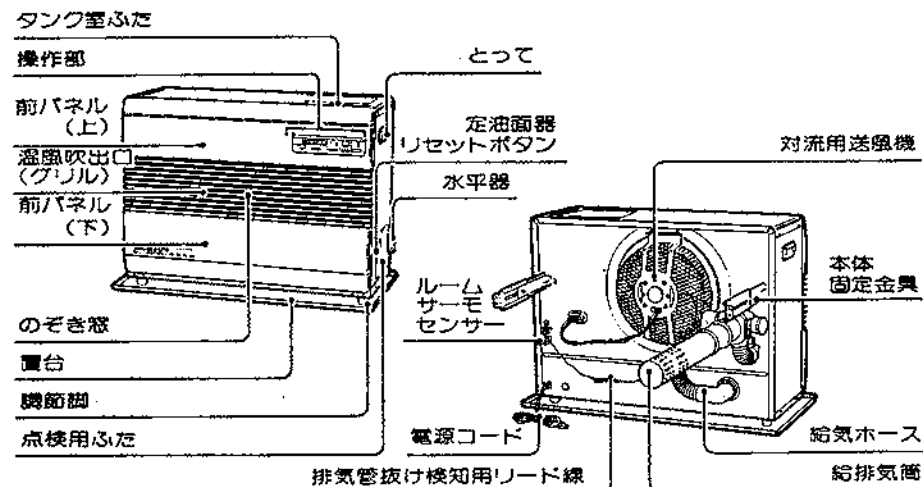
2. 自動的に次のように運転します。



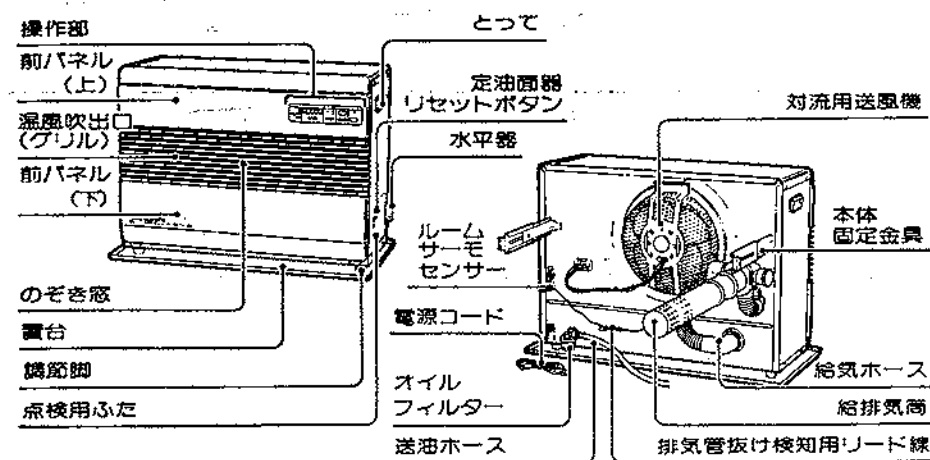
3. 各部の名称

外観図

FF-624TR



FF-624S



14. アフターサービス

修理を依頼するときには

故障・修理については、お買い求めの販売店又は、お近くのコロナお客様ご相談窓口にご連絡ください。

修理を依頼される前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、今一度「故障・異常の見分け方と処置方法」(24・25ページ)で点検していただき、なお異常のあるときは、保証書を提示のうえ、修理をご依頼ください。

無料修理期間経過後の修理

無料修理期間経過後の修理については、販売店にご相談ください。修理によって性能が維持できる場合は、有料修理致します。なお、メーカーは販売店からの注文により補修用性能部品を販売店に供給します。

石油ストーブの補修用性能部品の最低保有期間は、製造日から7年です。
①この期間は、通商産業省の指導によるものです。
②性能部品とは、その製品の性能を維持するために必要な部品のうち、

15. 据付け

据付け場所の選定及び据付け要領

△注意 1. ストーブの据付けについては、火災予防条例など各種の規制があります。販売店・据付業者とよく相談することが大切です。

△注意 2. 積雪の多い地方では、給排気筒が雪でふさがれないように注意してください。また、風がよどむような場所では、排ガスを再度吸込んで不完全燃焼を起こすことがありますので、注意してください。

3. 電源プラグは、必ず適正配線された单相100Vのコンセントに差込んでください。

4. 地震などによる転倒防止のため、付属の本体固定金具を使用し、壁面にしっかりと固定してください。本体固定金具が使えない場所では、床固定金具(F-60S：別売部品)を使用し、床に固定してください。

●ストーブは、壁または床に必ず固定してください。
●転倒防止のため、固定できない場所では使用しないでください。

油タンクの水抜き

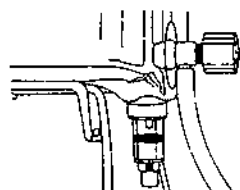
624S

別売TC-40K形油タンクの場合

油タンク内には、水やごみがたまりやすく、多くたまるとストーブの方へ流出して、灯油の流れを妨げて十分な火力が出なくなります。

ときどき水ゲージを点検して、次のように水を抜いてください。

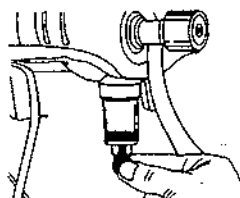
1. 水がたまると灯油と水との境界面に赤色の浮子が浮きあがります。浮子が上まで浮きあがらないうちに、油タンク内の水を抜いてください。



2. 水抜きバルブの下に容器を置いて、水抜きバルブを少しゆるめると油タンク内の水が出て、浮子が沈みます。

水を抜いたら水抜きバルブを固く締めてください。

油漏れがないか必ず確認してください。



定油面器ストレーナの掃除

- 定油面器には、ごみを除くためのストレーナがついています。

水やごみがたまると、灯油の流れを妨げて、十分な火力が出なくなります。

シーズンの終わりには、次のように掃除してください。

1. オイルフィルターを取出し、付属のスポンジで固定タンク内にたまっている灯油を全て抜取ってください。(624TRの場合)

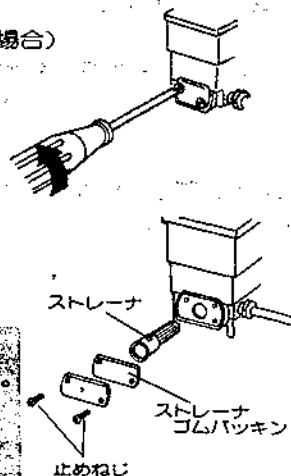
2. 油タンクの送油バルブを閉じてください。(624Sの場合)

3. 右側面の点検用ふたをはずしてください。

4. 右側面のストーブと置台の間に油受けの容器を置いてください。

5. ストレーナの止めねじをゆるめてはずしてください。定油面器の汚れた灯油やごみが全部流れ出ます。

6. ストレーナを取出して、きれいな灯油の中ですすぎ洗いをしてください。(水で洗わないでください)



組立てるときは

- ストレーナゴムパッキンを忘れぬようにしてください。
- ストレーナを逆に入れないでください。
- ストレーナの止めねじを、固く締めつけてください。
- 油漏れがないか確認してください。

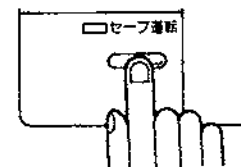
室温の調節

セーブ運転

最小火力でも室温が上昇する場合(気温の高いとき、日あたりの良い部屋)は、セーブ運転をお選びください。

- セーブ運転ボタンを押してください。

セーブ運転ランプが点灯し、室温がセット温度より約3℃上昇すると、自動的に消火(セーブ消火)し、セット温度まで下がると自動的に再点火して、室温を調節します。



一旦セーブ運転にすると、電源プラグを抜いたりなどの1分間以上の停電がないかぎり、点火操作を行うと自動的にセーブ運転となります。

通常運転に戻す場合は、セーブ運転ボタンを再度押してください。

炎の状態

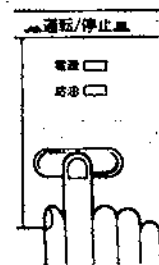
- 炎の状態は青い炎の中に、いくらかの黄色い炎(赤火)がまじっても異常ではありません。

消火

- 運転スイッチを押してもどしてください。

1. 電源ランプは消灯しますが、燃焼室が冷却するまで燃焼用・対流用送風機は、運転を継続します。

2. 約15分後に燃焼室が冷却され、燃焼用・対流用送風機が自動的に停止し、同時に設定温度表示が消灯します。



- 外出するときは、必ず消火してください。
- 長期間留守にするときは、必ず電源を切ってください。
- 消火操作後温風が出ている間は、絶対に電源プラグを抜かないでください。もし抜かすと、のぞき窓がススでくもったり、ストーブの表面温度が上昇します。

⚠ 注意

● 温風に注意

温風に直接長時間あたらないでください。
低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。

● 高温部に注意

燃焼中や消火直後は、温風吹出口や給排気筒など高温部に手などふれないように注意してください。
やけどのおそれがあります。



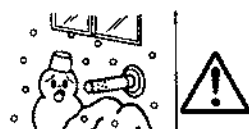
● 分解修理の禁止

故障、破損したら、使用しないでください。
不完全な修理や改造は危険です。



● 給排気筒トップ閉そく注意

積雪の多い地方では、給排気筒トップが雪でふさがれないように注意してください。
排ガスを再度吸込んで不完全燃焼を起こすことがあります。



● 腰をかけたり、物をのせないで

腰をかけたり、やかんや花瓶などの物をのせないでください。
やけどしたり、ストーブが変形することがあります。
また、水が内部に入ると、感電、火災、故障の原因になります。



● 電源コード、プラグ

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っばったりすると電源コードが破損し、火災、感電の原因となります。



● 変質灯油に注意

変質灯油、汚れた油、水の混じっている灯油などを使用しないでください。
異常燃焼や故障のおそれがあります。

● 灯油の保管

灯油は、火気、雨水、ごみ、高温および直射日光を避けた場所に保管してください。ガソリンなどと一緒に保管しないでください。誤って使用すると危険です。



試運転

1. 運転準備 (詳しくは、8～12ページを参照してください)

- ① 送油経路内の空気抜きをしてください。(624Sの場合)
- ② 運転スイッチが〔停止〕になっているか確認してください。
運転スイッチを〔運転〕のまま電源プラグをコンセントに差し込むと、E7が表示されます。
この場合は、一旦運転スイッチを押しもどしてください。
- ③ 電源プラグをコンセントに差し込んでください。
- ④ 定油面器リセットボタンを軽く押下げてください。
- ⑤ ストーブの置台の上や送油管の接続部に、油だまりや油漏れがないか確かめてください。

2. 運 転 (詳しくは、12～18ページを参照してください)

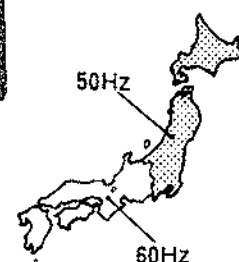
- ① 油タンクの送油バルブを開いてください。(624Sの場合)
- ② 運転スイッチを押してください。電源ランプが点灯し、7～8分後に対流用送風機がまわり温風が出ます。
初めてお使いになるときは、ストーブ内の送油管に灯油がみだされておられませんので炎が消えることがあります。この場合は、一旦消火して、冷えるのを待つてからもう1度点火してください。
初めてお使いになるときは、耐熱塗料などが焼けて煙と臭いがでます。窓をあけて部屋の換気をしてください。
- ③ 運転スイッチを押しもどしてください。
電源ランプが消灯し約15分後に、燃焼用・対流用送風機が止り、設定温度表示が消灯します。

周波数の確認

- 工場出荷時、ストーブは50Hz地域・60Hz地域それぞれの周波数に合わせてありますのでそのままご使用ください。

販売などで周波数の異なる地域でご利用になる場合は販売店又は、お近くの日立・おまかせの日立窓口にご連絡ください。

50Hz・60Hz
地域のめやす



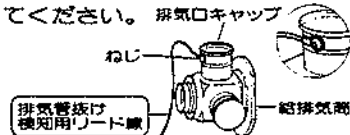
7. その他の装置

排気管抜け検知装置

排気管の接続部がはずれたときや、排気管抜け検知用リード線がはずれたり、断線したときには、安全装置が作動し、エラー表示 **[E5]** を出し、消火します。排気管抜け検知装置が作動している場合は、エラー表示 **[E5]** がでて点火できません。

排気管抜け検知装置にたよらず、給排気管や延長管を月に1度は点検してください。

原因を調べ、処置後点火操作をしてください。



排気管抜け検知用リード線のゆるみまたは、はずれ・切れがないか確認してください。

再点火安全装置

消火直後、ストーブが冷却しないうちに再点火操作をしても、燃焼室の温度が一旦冷却してからでないと燃焼しないようになっています。

8. 日常の点検・手入れ

点検・手入れは、消火後ストーブが十分冷えてから、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

△注意 電気製品の分解や市販品との交換は絶対に行わないでください。

ストーブとストーブ周囲の点検

- △注意**
1. ストーブの周囲は、常に整理・清掃し、燃えやすいものを置かないでください。
 2. ほこりや汚れをそのままにしておきますと、油がしみたりして危険です。ストーブは、いつも清潔にしてお使いください。
 3. 置台・油タンクに油漏れ・油のたまりや油のにじみがないか、ときどき点検してください。また給油の際にこぼれた灯油はよくふきとってください。
 4. 送油用ゴムホースは、ひび割れやふくれがないかシーズン初めに点検してください。異常のある場合は、交換してください。(624Sの場合)

●油漏れのある場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

タイマーの使用法

- 必ず時計動作コロンが点滅することを確認してください。点滅しない場合は、切換スイッチが「時計」になっていないか、または、おはようタイマーボタンが押されたためタイマー点火時刻を表示しています。
- 1分以内の停電であれば、再通電後も現在時刻を表示しますので時刻合せの必要はありません。それ以上の停電で、時刻表示部が0:00を表示したら時刻合せを行ってください。
- 1分以内の停電であれば、再通電後もタイマーセット時刻は記憶されています。セット時刻を変更するとき以外はタイマー時刻セットは不要です。

おはようタイマー

■ストーブ停止中からのタイマーセット方法

1. おはようタイマーボタンを押してください。
現在時刻表示がタイマーセット時刻に切り替わり時計動作コロンが点滅から消灯にかわります。

おはよう おやすみ



2. 運転スイッチを押してください。
おはようタイマーランプが点灯して、セット完了です。

1時間 ☐

2時間 ☐

タイマーのセットを先に行ってください。
運転スイッチを先に押しますと、いったん運転状態になります。

■ストーブ運転中からのタイマーセット方法

- おはようタイマーボタンを押してください。
- 現在時刻表示がタイマーセット時刻表示に切り替わり時計動作コロンが点滅から消灯にかわります。
 - 電源ランプが消灯し、消火動作に入ります。
 - おはようタイマーランプが点灯します。
- これでセット完了です。

1. 特に注意していただきたいこと、安全のために必ずお守りください

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 危険 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

⚠ 警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容(左図の場合は一般的な注意)が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合はガソリン禁止)が描かれています。



●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください)が描かれています。

⚠ 危険

●ガソリン厳禁

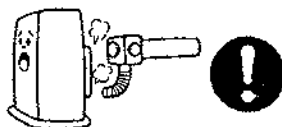
ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
火災の原因になります。



⚠ 警告

●外れ危険

給排気筒(管、ホース)が正しく接続されているか
点検してください。
外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて危険で
す。



MEMO